

—第4号—

ふるさと

福井の自然

福 井 県



はじめに

福井県は、面積のおよそ75%が林野で占められており、森林性の動植物にとっては恵まれた生息環境にあるといえます。しかし、全世界的に絶滅する生物が増えているなか、本県も例外とはいえません。

福井県では今年、自然公園大会を開催してこの機会に県民はもとより、全国の皆さんに福井の自然を知っていただくと考えています。

また大野市の六呂師高原に自然保護センターを建設し、県民の皆さんにはこの施設を積極的に利用していただき、自然保護の大切さを少しでも理解していただければと考えています。

平成2年3月

福井県知事

栗田幸雄

	福井県の山(位置図)	1~3
1	刈安山	4
2	国見岳	5
3	厨城山	6
4	日野山	7
5	一乗山	8
6	浄法寺山	9
7	取立山	10
8	法恩寺山	11
9	道斉山	12
10	荒島岳	13
11	権現山	14
12	冠山	15
13	西方ヶ岳	16
14	青葉山	17
15	巨樹・巨木林調査	18~19
	参考図書	20
	あとがき	

福井県の山

福井の山々は、いくつかの区割された山地構成となっており、標高1,000m級の山と、それ以下の800m級の山、そして低山地とよばれる500m以下の山々に分けられ、それらの山は、日本列島創生の大地の動きや火山活動に原因して今日に至ったものです。日本列島は、アジア古大陸と大陸移動によって運ばれた二つの大陸の集まりでできた地殻です。

福井の山地は、石川・岐阜県と境をなす加越・越美山地には標高1,000m級の火山岩に被われる山なみが連なり、火山山地としての特色を示し、岐阜・滋賀県境に連なる山々は、南条・野坂・丹羽山地に属して、800~1,000m級の山が存在するが、それらの地殻は中・古生代の古期岩類でできていて準平原の侵食された地形のつくりで、大陸の隆起運動が大きく関わっています。

また、本県中央部の丹生山地や越前中央山地は、標高400~500m、そして700~800m級の山なみが連なっており、地殻の沈み込みによる運動によってつくられた地形です。

このように福井の山は、その大地のつくりと大きく関わり、その後の侵食によって形づくられたものです。



経ヶ岳

福井県の山位置図



石 川 県



岐 阜 県

- ▲ 1,000m未満の山
- ▲ 1,000m以上の山

1. 刈安山



いこいの森

福井平野から眺める刈安山(標高547.7m)は、起伏が少なく変化に乏しい山ですが稜線には広葉樹林が分布し、四季の変化に富みます。またこの山は、「いこいの森」として探鳥路、観察ハウス等が設けられ、野外レクリエーションに利用されています。

この地区は、福井・石川県境に沿う標高400~500mの山地部で、新生代の火山岩でできています。

植生は、標高500mを境にして、下部にはミズナラ-マルバマンサク群落が優占し、山頂付近にはブナの老齢巨木が残っており、安定した丘陵地帯生態系として貴重です。二次林帯は、鳥類の繁殖可能な環境で、夏鳥の営巣も確認されていますが、全体的には伐採、植林が進みカラ類が多くなっています。



刈安山

2. 国見岳

国見岳(標高656.1m)からは海が見渡せ、昔は軍事上の要地として利用されてきました。

この山は宗教の山でもあり、越知山とともに泰澄大師の開基と伝えられています。国見岳の頂上部を含めた山稜部はほぼ一定の高さを示し、高原地形を思わせる美しい山なみで景観も優れています。この付近一帯の新第三紀層は国見累層と呼ばれ、凝灰岩・泥岩などからできていて、一部に石炭(亜炭層)の薄い層を挟んでいて、過去には採炭をしていました。この地層からは多くの動植物の化石がでて、これらの地層を厚く被って国見岳安山岩が広く分布しています。

山麓付近では、植林が行われていますが、標高100m付近からは、ヤブツバキクラス域代償林が、標高400m付近から頂上に向かってはブナクラス域の代償林が密生して自然度のよい植生環境がつくられています。

近年、国見岳は林道開設や山頂付近の観光地化により、自然環境は変化して、昆虫の種類は少なくなっていますが、一部では往時の面影を残すかのように注目すべき種がみられます。



国見岳

3. 厨城山



(カッコウ)

丹生山地南部の山腹急斜面が日本海岸に接しており、その山麓に沿って見事な海岸段丘があります。山地は全て中生代の火山岩類（面谷流紋岩類）からできています。

植生は、厨城山（標高513m）の山頂付近にオオバクロモジブナ群集が優占する極相林が残されており、鳥類にとっては広葉樹のある良好な生息環境となっています。ヒヨドリ・ホオジロが著しく優占する中で、エナガ・ヤマガラ・シジウカラ・ウグイス・コゲラ・カケスなど繁殖期には個体数も多い。留鳥ではオオタカ・ヤマドリ・アオゲラ・メジロ・イカル、夏鳥ではヤブサメ・オオルリ等の個体数が多く、その他ハチクマ・サシバ・ツツドリ・ホトトギス・サンショウクイ・クロツグミ・メボソムシクイ・センダイムシクイ・サンコウチョウ等が見られます。また冬鳥ではシロハラ・ツグミ・アオジ・アトリ・ジョウビタキ等の渡来も見られます。



厨城山

4. 日野山

日野山（標高794.5m）は、その美しい山の形から「越前富士」とも呼ばれ、南越地方第一の名山といわれています。養老2年（西暦718年）泰澄大師によって開山され、越前五山の一つに数えられます。中・古生層を基盤として中生代に噴出した火山岩類（面谷流紋岩類）が侵食を受けて形成されたもので、山稜には武周ヶ池という小池が存在します。

植生は、北限種シモバシラの分布、山頂付近にオオバクロモジブナ群集の極相林が残されていること、孤立山の特徴がみられることなどが植生分布のうえで貴重であるといえます。

昆虫は、多くの種が見られ、かなり良好な自然環境が残っているといえます。蝶類は個体数も豊富で、ミドリシジミ・アカシジミなどの珍しい種を含めて50種が確認されています。トンボ類は、ムカシトンボの生息が確認され注目されています。甲虫類も豊富で、全国的にも珍しいスジナシコブスジコガネ・クチキオオハナノミが確認され、分布上注目される種も多く生息しています。ハチ類は日本海側での分布南限となっているマネギングチなど種類が豊富です。アリ類はカドフシアリなど22種の生息が確認されています。また、山頂付近ではエゾゼミが生息しています。



日野山

5. 一乗山

いちじょうさん
一乗山は、福井市と美山町との境界にまたがる標高740.9mの山で、南西には殿上山、北には白椿山が並び、さらに北に伸びる稜線には、朝倉氏が築城した一乗城山があります。この一乗山は、泰澄大師生誕の地、福井市三十八社から真東にあたり、泰澄大師によって養老元年（西暦717年）に開山されたと伝えられています。

植生は、史跡をとりまく山地森林として安定した組成を持つ代償林が規則的に分布しています。特にアカマツ－ホツツジ－ショウジョウバカマ群落・ミズナラ林等の安定した林相は生態地理学的に貴重です。また南限植物であるカメバヒキオコシが分布し、*日本海地域固有種が多いことは分布上貴重で、史跡を取りまく自然環境としても重要な地域といえます。

一乗山は低山帯であるにもかかわらず、山地性の昆虫が生息しシナノクロフカミキリなど珍しい種が生息しています。また、一乗谷川にはゲンジボタルが生息しています。

両生類は、一乗谷川でオオサンショウウオが発見されたことがあり、爬虫類はタチホヘビの生息が確認されています。

*日本海地域固有種……太平洋沿岸に比べ著しく湿潤で冬の積雪量が多い日本海沿岸に片寄って分布する植物で、エゾズリハ・ヒメアオキ・ヒメモチ等の常緑性低木、タニウツギ等の落葉性低木、ホクリクネコメソウ等の多年性草本植物が含まれる。



一乗山

6. 浄法寺山

福井平野を取りまく山々のうち、最高峰である浄法寺山（標高1,052.8m）を中心とした壮年期山地は、竹田川、浄法寺川、岩屋川などに侵食されて、山は急斜面で取り囲まれています。

地質は、新生代の火山岩で被われ、基盤は飛騨変成岩、流紋岩、花崗岩でできています。

植生は、西限種タマアジサイ・オオタネツケバナ・北限種クロソヨゴ等が分布しています。

また、オオバクロモジープナ群集の※標徴種、日本海地域固有種が多く、尾根沿いのミズナラ林は、原生林に近い安定した林相をしています。森林生態系による自然景観が、本県の低山地の中では最もすぐれた地域の一つです。

竹田川上流域の急峻な溪谷には、蝶・甲虫・トンボ類が豊富で、注目すべき昆虫も確認されています。特にトワグカワケラ（水生昆虫）・アジメドジョウ（魚類）は分布上特記すべき種です。また、的川上流にはチドリノキが優占する溪谷植生が見られます。

※ 標徴種……特定の群集だけにしかみられないか、他の群集ではあまりみられない種で、量的ではなく質的に、その型の群集を特徴づける植物の種類。



浄法寺山

7. 取立山



ミズバショウ

奥越火山地に属するこの山地には、緩やかな斜面が所々発達しています。東部では中生代の流紋岩類を、西部では手取層群を広く被って安山岩が分布しています。

この山地は本県の最豪雪地ですが、取立山(標高1,307.2 m)の山頂付近にはオオバクロモジープナ群集の林帯が分布し、取立平の湿原には、千数百株に及ぶミズバショウの群落が見られ、天然記念物に指定されています。

鳥類は、ホオジロ・ウグイスが優占し、昆虫類は自然環境の変化により種類は減っていますがマガタマハンミョウ(分布南限)・アカヤマアリ・エゾヤマアリ(分布西限)などの貴重な昆虫も見られます。

両生・爬虫類は、溪流が多く生息適地が多いのでヒダサンショウウオ・ヒキガエル・マムシ・ヤマカガシ・アオダイショウなどが多く生息しています。



取立山

8. 法恩寺山

泰澄たいじやう大師が白山登山の折、この山に登り、方向を見定め、構想を練ったといわれています。

山麓に平泉寺を建立した大師は、山上にも法恩教寺を建立し、その寺名から法恩寺山と名付けられたと伝えられています。

法恩寺山ほうおんじやうざん（標高1,356.8m）は、経ヶ岳と一続きの山体で、共に火山岩類で被われ、西になだらかな斜面を持つ女性的な火山性地形の山です。この地域は、本県における代表的な多雪地域の一つで広葉樹林、特にオオバクロモジープナ群集およびチシマザサープナ群集の原生林が分布しています。

鳥類は、法恩寺山の広葉樹林内で夏鳥の繁殖が認められるほか、カケスが優占し、溪流部ではカワガラスの繁殖が見られるなど優れた生息環境をあらわしています。またオオルリ・キビタキ・ヤブサメ等の夏鳥も見られます。

獣類は、ムササビ・トウホクノウサギが見られます。



法恩寺山

9. 道 齊 山

道齊山（標高1,188.6m）の西側を流れる真名川は深い河谷をつくって、河岸段丘もみられます。地質は、ほとんどが中生代後期の手取層群からなり、下部の黑色頁岩層からはアンモナイト化石を産出します。

植生は、おもにクリーミズナラ林およびブナ・ミズナラ林などの広葉樹林帯で、尾根の一部には、典型的なオオバクロモジ・ブナ群集が分布しています。

鳥獣類は、高地性のクロジやワシタカ類等の鳥類や、タヌキ・ツキノワグマ・ニホンカモシカ等が分布し、生息環境はやや良好です。昆虫類は種類が豊富とはいえませんが、エゾジガバチモドキ等の珍種が多く生息しています。両生・爬虫類は、生息環境が良好なためハコネサンショウウオ・ヒダサンショウウオ・カジカガエル等が生息して、貝類は、稀産種のオクガタギセルの生息が確認されています。



道 齊 山

10. 荒島岳

あらしまだけ
荒島岳（標高1,523.5m）は、大野盆地の東南にあって、山の形が美しく、故深田久弥の日本百名山の一つに数えられ、山麓には新緑・紅葉の美しい九頭竜溪谷があります。

荒島岳の周囲は急斜面の地形が多く、地質は最古の飛騨変成岩を基盤として、その上に中生代の地層（手取層群）があり、山頂には古い安山岩が分布しています。

植生は、標高1,000mから1,200m付近までに、日本海地域固有要素のほとんどの種類が分布する典型的なオオバクロモジープナ群集の原生林が残存しています。さらに上部にはシャクナゲ林およびオクノフウリンウメモドキ・アサノハカエデ・クロウスゴやジンバイソウの分布しているダケカンバ林が続いています。山頂付近には、ハクサンフウロ・カライトソウ・ハクサントリカブトやタテヤマウツボなどが見られるお花畑が広がっています。

鳥類は、登山道周辺の溪流沿いでカワガラス・ヤマセミの生息が確認されています。

昆虫類は、荒島岳中腹以下を中心に個体数・種類ともに多く分布上注目すべき昆虫も少なくありません。特に標高1,000m前後にあるブナ林には甲虫類が多く見られ、また、蝶・蜂類も多く、自然環境のすぐれたところといえます。



荒島岳

11. 権現山

権現山ゴンゲンサン（標高565m）付近の山地は、かなりの連続した平坦面が見られますが、権現山の山頂はそれより一段突出しています。これらの地形を深く侵食する谷底には多くの滝（柳の五滝といわれています。）があり、その地質は、新生代の糸生累層とよばれる地層でできていて、珪化木等の化石を産出します。

植生は、地形が極めて急なために人があまり入っておらず、すぐれた自然環境が残されています。山頂付近に分布するクリーミズナラ林帯には、ミズナラーハウチワカエデトキワイカリソウ群落が見られ、日本海地域固有の要素が多く、全体的に極めて豊富な植生の分布を示しています。

鳥類は、キジ・ヤマドリ・オオルリ等の繁殖地になっています。昆虫類は、豊富とはいえませんが、コルリクワガタ等の貴重な種が確認されています。なお、両生・爬虫類には良好な環境で県内生息種の大半がこの付近に生息しています。



権現山

12. 冠 山

冠山（標高1,256.6m）は、岩肌の露出した山です。昭和46年に岐阜県の徳山村との間に林道が開通してからは、交通の便がよくなり急に脚光を浴びました。準平原化した地形が隆起し、チャートと呼ばれる岩肌がきわだって、烏帽子冠に似た山頂であることから、冠山と名づけられました。

植生は、越美山地の中で代表的な広葉樹林が広範囲に広がっており、山頂下の平坦な冠平には、高山植物群落のお花畠が分布するなど、多雪温帯林における典型的な生態系が構成されています。

またこの地域のブナ原生林では、カラ類等の森林に住む鳥類が確認され、優れた生息環境となっています。

昆虫は、中部山岳地帯にやや似た様相を示し、北方系、山地性のエゾゼミ等が確認され、その他の種類・個体数も豊富で、多くの注目すべき種の生息が確認されています。また爬虫類等の生息環境にもすぐれ、とくに貝類にとっては、白山山系に匹敵する豊かさです。魚類は、アジメドジョウの生息が注目されます。



冠 山



お 花 畠

13. 西方ヶ岳

西方ヶ岳（標高764.1m）は、蛭螺ヶ岳（標高685.5m）とともに敦賀半島の主峰で、ほとんどが花崗岩からできていて、その地質年代は中生代の終わり頃で、今から7~8千万年前のものです。

植生は、標高200mまでにはトベラークロマツ群集・ヤブコウジースグジイ群集・イノデータブノキ群集が、中腹にはヤマツツジ・アカマツ群集、山頂部にはオオバクロモジ・ブナ群集が分布しています。これらの樹木にまじって、北限種のヤマモモやヒメユズリハなど貴重な植物群落が見られます。

鳥類は、一般的な森林鳥が多く、獣類ではニホンカモシカの生息記録があります。

昆虫類は、海岸周辺部では暖地性昆虫の生息が目立ち、西方ヶ岳周辺では山地性昆虫が生息しています。また、両生・爬虫・貝類は、多くの種類が生息し、なかでも多くのカエルの種類が目立っています。



西方ヶ岳

14. 青葉山

青葉山あおばさん（標高669m）は、コニーデ形火山の独立峰で、広い裾野丘陵をもち、高浜海岸から眺める山容は、若狭富士とよばれて秀麗な景観を見せ、また山頂からは若狭湾の雄大なパノラマ景観が楽しめます。

植生は、山頂付近に固有種オオキンレイカが分布するほか、ヒモカズラ・アオペンケイソウなど分布の上で極めて重要な種が多く見られます。また、山頂付近にはブナ・オオバクロモジーツルシキミ群落が優占する典型的な日本海型ブナ林が分布しています。

鳥獣類は、カラ類・オオルリ・キビタキ・ワシタカ類も見られ、また、大型獣類も生息する良好な生息環境となっています。

昆虫類は、暖地性のものが多いが、これに山地性の昆虫が加わって特色ある分布を示しています。なお、分布の上での北限種も多く見られます。

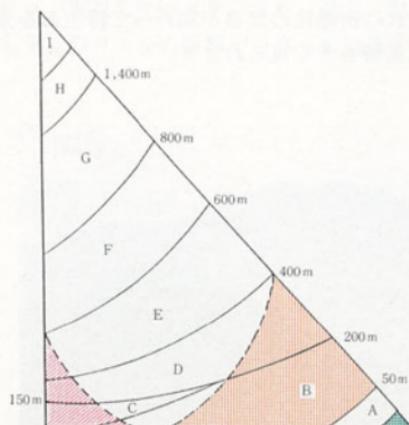


青葉山

15. 巨樹・巨木林調査

本調査は、実体が不明なまま急速に失われつつある巨樹・巨木林の現況を昭和63年8月から平成元年3月にかけて調査したものです。調査対象は、地上から約130cmの位置で幹周が300cm以上の樹木としました。調査の方法としては、市町村、林業事務所および一般県民からの情報提供を受け、これに基づいて植物専門家が現地調査を実施しました。対象地域は県内全域ですが奥地山林は除いてあるため、実在する巨木数は下記本数を上回るものと思われます。

本調査の結果、34市町村で690件、1,373本の巨樹・巨木林を確認しました。確認した樹種は48種（常緑樹26種、落葉樹22種）ですが、このうちスギ・ケヤキ・タブノキ・スタジイ・イチヨウの5種で全体の約80%（1,115本）を占めています。



福井県における現存森林植生帯

A	イノデ・タブノキ群集	G	オオバクモジブナ群集
B	ヤブコウジ・スタジイ群集	H	ダケカンバ林
C	モミ・ウラジロガシ群集	I	オオシラビソ林
D	クリー・コナラ林		クロマツ林
E	クリー・ミズナラ林		アカマツ林
F	ブナ・ミズナラ林		スギ林

(環境庁 1988より作成)



勝山市 岩屋神社 スギ



大野市 白山神社 カッラ

巨樹・巨木林調査まとめ

市町村名	巨樹	巨木林			合計	総数	特記事項
		樹林	並木	小計			
福井市	46件	27件	0件	27件	73件	120本	アベマキ(300cm), コウヤマキ(340cm)
敦賀市	20	14	0	14	34	56	カゴノキ(40cm), ヤマモモ(30cm), イチイ(30cm)
武生市	8	5	0	5	13	20	
小浜市	8	16	0	16	24	84	カヤ(16cm), ムクロジ(40cm), ヤマモミジ(20cm)
大野市	25	36	1	37	62	123	
勝山市	26	22	1	23	49	83	
鯖江市	9	49	0	49	58	123	クヌギ(430cm, 390cm, 355cm)
美山町	3	5	0	5	8	22	
松岡町	1	7	0	7	8	11	
永平寺町	2	10	0	10	12	17	
上志比村	9	3	0	3	12	15	
和泉村	8	5	0	5	13	20	コウヤマキ(300cm), サワグルミ(400cm)
三国町	3	19	0	19	22	56	
芦原町	0	5	0	5	5	12	
金津町	3	6	0	6	9	17	シロダモ(390cm)
丸岡町	2	10	0	10	12	14	
春江町	1	3	0	3	4	4	
坂井町	2	11	0	11	13	19	
今立町	5	11	0	11	16	32	キタゴヨウ(360cm), エドヒガン(400cm)
池田町	5	40	0	40	45	93	キタゴヨウ(300cm), アサマキザクラ(310cm)
南条町	6	12	0	12	18	42	
今庄町	4	14	0	14	18	35	
河野村	—	—	—	—	—	—	
朝日町	1	9	0	9	10	21	
宮崎村	4	11	0	11	15	25	
越前町	4	2	0	2	6	10	
越廼村	3	4	0	4	7	13	
織田町	1	1	0	1	2	2	
清水町	3	3	0	3	6	10	
三方町	21	11	1	12	33	69	カゴノキ(320cm), ハリギリ(310cm), モチノキ(220cm)
美浜町	24	23	1	24	48	98	ヤマモモ(300cm)
上中町	0	8	1	9	9	33	ハリギリ(410cm), アカガシ(317cm)
名田庄村	2	9	0	9	11	33	カゴノキ(335cm)
高浜町	1	5	0	5	6	17	
大飯町	1	8	0	8	9	24	
市町村計	261件	424件	5件	429件	690件	1,373本	

参考図書

1. 福井県 (1976) 福井県自然環境保全基礎調査報告書
2. # (1985) みどりのデータ・バンク総括報告書
3. 環境庁 (1988) 自然環境保全基礎調査、植生調査報告書(福井県)
4. 上杉喜寿(1987) 越前若狭山々のルーツ
5. 里貝信生 他(1979) 北陸の自然誌 山編
6. 沼田 真 編(1988) 生態学辞典(増補改訂版)

福井県自然保護センター



大野市南六呂師：平成2年7月開館

あ と が き

ふるさと福井の自然第4号をお届けします。

本号は、福井県の山について地形・生物・人々とのかかわりに焦点をあてて作成しました。

人間は古来より山を信仰し、利用し、大切に守ってきました。私たちはこの先輩の残したふるさとの自然を保護し、子孫に伝えていかなければなりません。

この小冊子をとおして、ふるさと福井の自然に少しでも触れていただければ幸いです。なお、ご意見・ご要望などがありましたら県自然保護課までお寄せください。

平成2年3月

自然保護課長 阪本 義昭

ふるさと福井の自然 (第4号)

平成2年3月発行

編集・発行 福井県県民生活部自然保護課
〒910 福井市大手3-17-1
TEL(0776) 21-1111

この本は福井県自然保護基金によって作成されました。

(写真提供:伊藤政昭・北川博正・阪本周一)



オオコノハズク



ニリンソウ

